

お客様に愛される

“癒しの百貨店”を目指して

株式会社池田 お仏壇のまごころ

代表取締役 池田 耕一 さん

住所：大川市大字向島1375-1

TEL：0944-8810117

FAX：0944-8810067

H P： <https://www.magokoro-okawa.com/>

今月の夢追い人は、株式会社池田 お仏壇のまごころの池田さんにお話を伺いました。

「株式会社池田 お仏壇のまごころは平成18年創業、今年で17年目となります。お仏壇のまごころという店名のお仏壇、お仏壇やお念珠などの宗教・供養用品を主に販売しています。また、仏事に関することについて幅広くお世話をしています」

「どういった経緯で、この業種に携わるようになったのかきつかけをお伺いしました。『両親が元々、この業種に携わっていたことが大きいです。両親に連れられてお寺や、業界の展示会などに行く機会がよくあり、境内や仏像・仏具などを見るのも嫌いでは

なかったですが、ぜひやってみたいという感じではなかったです。私自身は、海外に興味があったので、大学卒業後は、化学プラントの建設やメンテナンスをする会社に入社をしていますが、父の体調を考慮して、大川に帰ってきました。その関係で、創業のときから私が代表を務めています」

主商品として取り扱われているのはお仏壇とのこと。

「お仏壇の歴史を簡単に言えば、家にある小さなお寺がお仏壇という感じです。そこでご不幸とかがあったりすると、各家庭に必要なようになってきます。身近ではないかもしれないお仏壇ですが、そのイメージはだいぶ変わってきています。かつての複合世代家族のお仏壇

壇にはまさに御先祖様がお祀りされていて、顔も良く知らないひいおじいちゃんとか、もつと上の御先祖様の位牌があつて、お仏壇の前に行くときちんと正座をして手を合わせるイメージが強いのではないのでしょうか。しかし、生活スタイルが変わり、現在の核家族のお仏壇にはごく身近な方がお祀りされるようになりました。そうなると、お仏壇は宗派に沿ったものから、なおかつ故人様らしいもの、故人様を身近に感じられるようなものに変化しています。お仏壇を家族が集まるリビングに置いて、その方と同じ空間に居たいという思いから、モダン仏壇や家具調仏壇というものに変わってきました。これから融合はさらに進み、生活スタイルや趣味に合わせ





タペストリー展の様子



店内のシンボル五重塔

たお仏壇のさらなるモダン化や個性化が進むと考えられます。そうになると、家の内装や家具との親和性がお仏壇にも求められていくと思います。また、家づくりの長さの単位も変わって来ていて、昔の住宅は尺貫法と呼ばれる尺や寸といった単位で造られていて、お仏壇もそれに合わせた寸が基準単位でした。しかし、現在では、メートル法で建物が作られていて、伝統型仏壇が仏間に納めると上部が開いてしまうといったことが起こってしまいます」

木工業が盛んな大川市ですが、お仏壇に関しても激戦区とのこと。では、お仏壇のま

ごころでは、どのような差別化をされたのでしょうか。

「会社がある大川市も含めた筑後地区は、人口の割にお仏壇屋さんがたくさん多いんです。うちのようには販売のみを行う小売店も近郊にたくさんありお仏壇の製造を行い、仏具販売も行う職人さんもいらっしやいます。なので、創業からいかに、差別化したお店作りを付けてきました。まず外観では、店内は大きな窓をとって外から見えるお仏壇は背を低いものにして、明るく、見える造りにしました。伝統的な背の高いお仏壇は、店内の奥の方に並んでいて、お客様から『奥にこんなにあった

んですね』ってよく言われます」

店内以外にもお客様のためになるお仏壇のまごころならではの取組みがあるそうですね。商品については、これも創業のときから始めたことなんですが、全商品のバーコード管理とPOSレジを導入して、商品在庫と顧客の購入履歴を管理しています。創業当時は、スーパードカでもバーコードがある商品はリーダーで読み、野菜などは値段を手打ちして、2つの処理が混在しているときでしたが、当社では全商品にバーコードを貼り付けました。お仏壇の業界でも、ろうそくや線香などには、バーコードが付いていますが、お祈りの際に用いるお念珠やお茶やお水をお供えする湯呑などには、いまでもついていません。そういったものにも自社でバーコードを作り、商品を一個、一個管理出来るようにしました。お客様登録をしていたら、買われた商品や日付がわかるので、『この前と同じ商品をください』と言われても、購入履歴ですぐ検索できる仕組みを作りました。お仏壇をお世話される方が世代交代しても、引き継ぐ方がなるべく困らないようにと思っています。長く引き継いでいくお仏壇ではこういった仕組みが必要だと考えています」

お客様に寄り添うため、池田さんを含めた従業員一丸となり、努力されているそうですね。仏事に関する事は、親族や友人にも尋ねにくいことがあるかと思いますが、そんなとき、お客様に弊社スタッフの顔を思い浮かべてもらえるようにしたいです。明るく楽しい会話のなかで、少しずつ信頼を積み重ねていきたいです。また弊社には私も含めて、3名のスタッフが仏事コーディネート資格をもって、います。仏教と仏壇仏具、またそれらを取り巻く仏事に関する知識を持った資格者のことです。お仏壇の形や種類、祀り方は、宗派や各地方の風習によって違うこともあります。そういった時に、お客様の知りたいことや気になることなどご相談いただけるように、日々努めています」

お客様とそこから繋がる縁を大切にされている池田さん。では、池田さんの夢は何でしょうか。

「お仏壇を販売することは、色んなことに影響を与えられることができると思っています。お仏壇は文化的伝統工芸品なので、伝統工芸の技術伝承にも繋がります。職人さんの仕事を作ることもなるし、日本の仏教文化や生活文化を伝えていくことにも繋がると思っています。また、生活スタイル

の変化や現代の忙しい日常生活において、お仏壇をはじめ、自分の『おかげ様』に気が付くきっかけをつくりたいと思っています。ろうそくや線香などは、スーパードカでも買えるようになりました。わざわざ専門店（仏壇店）に来なくても買えるようになったことで、専門店の敷居が高くなったように感じることもありそうです。その敷居をなんとか壊して、入りやすいお店にしたいと考えています。そのため様々なイベントを企画しています。タペストリー展を開催したり、最近ではコロナで開催が出来ていませんが、コンサートを開催したり、春には甘茶のお接待をしています。今年からは、句袋を作るワークショップを開催して、香木にも関心を持っていただけるような取り組みを行っています。秋にもこのワークショップを企画しています。ホームページやフェイスブック、最近だと、インスタグラムも始めて広報していますので、ぜひとも参加していただきたいですね。明るい店内の様子や働いているスタッフの顔が見えて、ちょっと覗いてみよいかと思っただけ。そして店内には、いつもお客様の笑顔があふれるようなお店づくりを続けていって、お客様に愛される、癒しの百貨店のような存在になりたいですね」